

数字で眺める岡山商業

岡山商科大学商学部産業経営学科 助教授 田中 潔
tanaka@po.osu.ac.jp, <http://www.nahaha.net>

【ねらい・めあて】

おかやま地域を示す指標はたくさんあります。インターネットにアクセスすれば多くの官庁統計が入手できるようになってきました。でも、数字というと毛嫌いされる方が多いものです。せっかくの数字です。上手に使いましょう。

いくつかの統計値を利用して、岡山地域の商業を眺めてみます。商圈や生活圏の調査結果から、世の中の変化が少しだけ見えてきます。

【プロフィール】

専門は「計算機統計学」という、統計学におけるコンピュータ活用を扱っています。学校（本業）では、情報システム論やら情報ネットワーク論を教えています。しかしアンケート調査や統計処理の実施などを中心にして、商店街や事業組合などの活性化などに駆り出されています。

1. 岡山のすがた・概況

100の指標からみた岡山県（平成13年度版）

<http://www.pref.okayama.jp/kikaku/toukei/100ind/100top-h13.htm#label-t>

項目	内容	値	単位	全国順位
自然環境	降水量 1mm 未満の日	275.9	日	1
	総面積	7112	平方キロ	17
人口・世帯	出生率	9.8	%	8
	増加率	-0.42	%	34
経済活動	第2時産業構成比率	42.2	%	6
	県民所得	2742	千円	29
労働	就職率（大学等）	63.7	%	12
	就業率	57.6	%	29
学校教育	大学数（対10万人）	1.33	校	5
	高校進学率	97.1	%	25
文化スポーツ	美術館数（対10万人）	8.68	館	5
	公共スポーツ施設数 （対10万人）	59.6	施設	28
家計・住まい	貯蓄額	16,227	千円	10

	1ヶ月当たり家計実収入	526	千円	36
居住環境	高速国道延長 1km 当たり	40.7	m	2
	国道舗装率	78.8	%	31
社会保障	老人ホーム定員 (65歳以上対千人)	25.30	人	6
	保育所数(対10万人)	20.3	施設	27
保健・医療	平均寿命(女)	83.81	歳	6
	主要死因死亡率(10万人)	492.9	人	26
安全	風水害被害額	415	百万	7
	交通事故死傷者(10万人)	1,046	人	41
財政	地方債高(1人当たり)	538,587	円	18
	普通建設事業費(＼)	108,159	円	35

昔、学校の社会で習ったおかやまの姿とは少し違う姿が見えてきたかも知れません。官庁統計の多くは、近年サイトで公開されるようになりました。特に岡山県庁サイトは充実していることで有名です。

(閑話休題)

県庁サイトのすごいこと～統合GIS～

田中が最近興味を持っている、地理情報システムGIS。岡山県庁ではすでに実用化のレベルで公開されていました。すごい。

<http://webgis.pref.okayama.jp/mwiiisapok/index.htm>

【メモ欄】

2 . 岡山の商業動向を知る

商業統計と観光動態調査結果

<http://www.pref.okayama.jp/kikaku/toukei/syougyou/syougyou.htm>

<http://www.pref.okayama.jp/syoko/kanko/kankohtml/01.htm>

年間商品販売額を工夫するとこんな数字が、

県民 1 人当たりの小売年間販売額 =

小売年間販売額 2,146,733 百万 ÷ 岡山県人口 1,951,094 = 1.10027 百万円

つまり岡山県では赤ちゃんからお年寄りまで、1 人平均 110 万円を年間購入していることになる。家族 4 人なら年間 440 万円。

小売販売額から算出する商業力

岡山市 人口 628,953 人、年間小売販売額 866,142 百万

$866,142 \div 1.10027 = 787,208$ 人分 (換算人口) 売上から見た換算人口

$787,208 \div 628,953 = 1.25$ つまり売上からみて人口の 125% に相当する 商業力 125

倉敷市 432,047 人 475,267 百万円 換算 431,954 商業力=100.0

津山市 90,370 134,157 121,931 134.9 (県下最大)

商業力でみるならば、津山市は人口の 35% 増の販売額を売り上げて県下最大。

理由： 県北の人は津山で買物。店の効率性が高い？ 県北の人はお金持ち？

こんな数字にも応用？

県下の 24 時間型コンビニの商業統計

年間小売額 5,722,940 万円 (111.9% 増)

この金額は換算人口 52,013 人分に相当。岡山県民の小売支出の 2.7% はコンビニ支出。

このページには、

<http://www.pref.okayama.jp/kikaku/toukei/syougyou/syougyou.htm>

の内容をコピーしました。

このページから3ページは

<http://www.pref.okayama.jp/syoko/kanko/kankohtml/01.htm>

の内容をコピーしました。

3．経済効果を計算する方法（ちょっと紹介）

よくマスコミで「 の経済効果は××億円」などと報道されますね．これを自宅のエクセルで計算できないでしょうか？

解説には，三重県庁の「産業連関分析事例集」などが参考になるでしょう．

http://www.pref.mie.jp/DATABOX/keizai/io_case/mokuji.htm

岡山県の産業連関表はここにありますが．先ほどの説明の値を取り替えれば岡山版の計算ができます．

<http://www.pref.okayama.jp/kikaku/toukei/sanren/flame2.htm>

（もしも出て来なかったら岡山県庁ページの検索で「産業連関表」と引いて見て下さい）

【メモ欄】

4 . 岡山市商店街通行量調査について

岡山市中心商店街部分ののべ 8 0 個所の 1 日の歩行者の流れを定点計測しています . 2 年おきに実施しています .

データや報告書 (岡山市サイト)

<http://www.city.okayama.okayama.jp/keizai/shougyou/toukei/tuukou/tuukouH14.htm>

当研究室では , このデータを地図グラフに表示するシステムを試作しています .

<http://www.osu.ac.jp/~tanaka/mapd/index.html>



(円グラフで表町 3 丁目付近の休日 9 時間合計の様子)

5 . 岡山県民の生活行動圏調査

(財)岡山経済研究所(中国銀行の外郭団体)が1979年より実施。
約3年おき20年,9回にわたる県下最大の買物調査を実施しています
過去に岡山県も実施(郡部はこの調査を代用),しかし途中で中止。
1回に約7,000人に15品目に関する買物場所を聞いています。

買物の他,通勤,観光,医療,交際などを含み,岡山県民の生活様式やその範囲を把握する研究が進められています。岡山経済研究所の詳細は<http://www.okayama-eri.or.jp/>

9回分の動向は,それぞれの報告書で刊行されています。
個別の結果については,有料ですが会員以外にも頒布しているようです。研究所へお問い合わせ下さい。

一方,電子地図など地理情報システムGISの進歩や環境整備が進んできた。
本研究室 <http://www.osu.ac.jp/~tanaka/shomap1.html> や
岡山大学環境理工学部垂水研究室<http://face.f7.ems.okayama-u.ac.jp/shoken/>
などでは,この行動圏データ解析を研究しています。

本研究室では,国土交通省が公開している,電子地図<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>を利用して,このデータの視覚化に取り組んでいる。現在,商圈構造マップ(仮称)が作成され,市町村ごとの流出流入関係が地図グラフとして閲覧できるようになっています。

これらの結果公開は,今後のなりゆき次第ですが,今日はほんの少しかそのサワリをご紹介します。

【メモ欄】

最寄り品： 生鮮食品，79，88，00年



生鮮食品は，最寄り品の代表格

最寄り品は，近所で値段の安い買物のはず．そこで商圈マップは自分の市町村に限られ，他市町村への流出はあまりないはず．

79年は確かに個々の点が多く，線（流出）はほとんどない．居住地での買物が多い．

88年になると，津山，新見への流出が見受けられ始める．2000年には，津山，久世，高梁，倉敷などへの流出が増大．

もはやモータリゼーションの進展により，生鮮食品も最寄性が失われつつある．

買回り品： 洋服商圈の推移

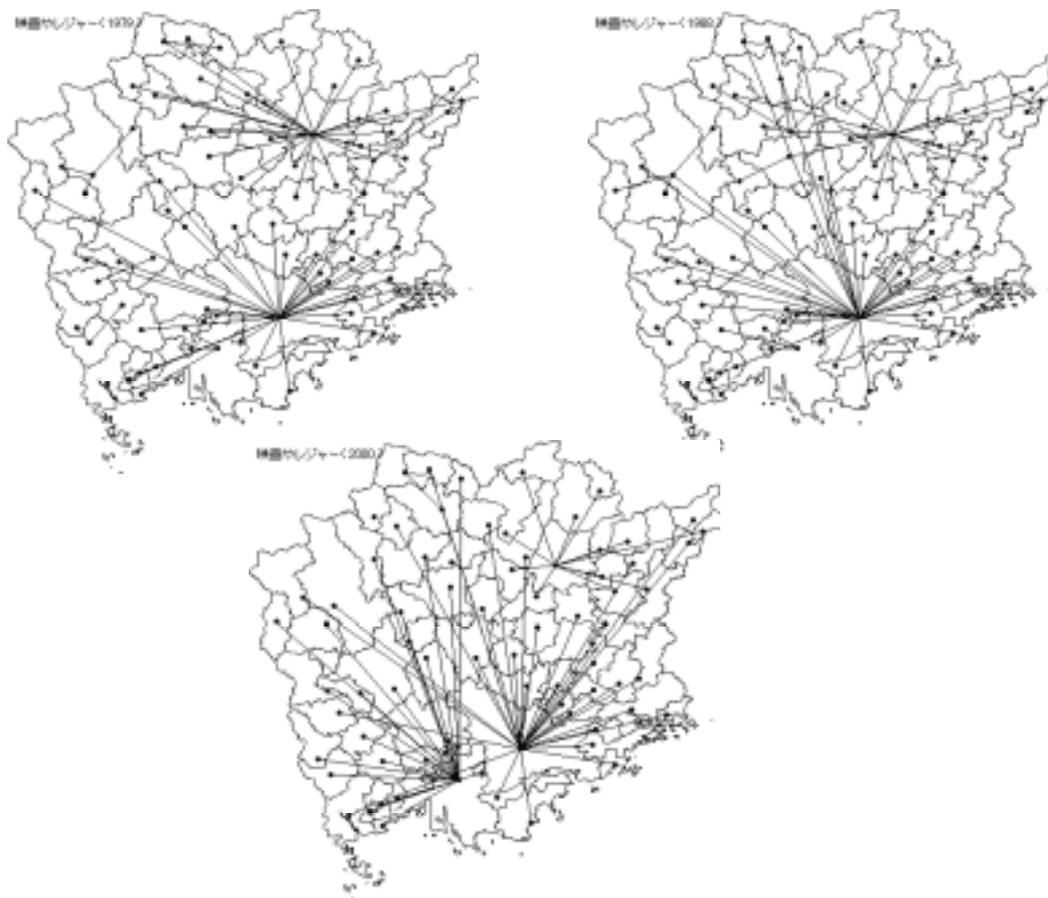


洋服（ここでは実質婦人服と解釈できる）は、品物次第で買いあさる買回り品と考えられる。店舗優位性（ストアロイヤリティ）が高い商品。

79年頃は、まだ地域の市部が周辺を吸引していた（新見，高梁，井原，笠岡，勝山，津山，岡山，大原など）。このころでも東備地区は岡山市へ吸引されている。88年には次第に淘汰され，岡山，津山，倉敷に吸引されてきた。地元の洋品店や婦人服屋さんが厳しくなった。

2000年には岡山，倉敷，津山，久世などへの集中傾向となり高梁は岡山のサブ商圈となっている。

映画やレジャーの商圈



これからは物販からサービスの時代といわれる。

79 年ごろ岡山，津山，倉敷のほかに，美作，新見，井原，笠岡などが郡部の拠点として吸引していた。映画は地元の映画館へ出かけた良き（？）時代。

88 年ごろ，岡山と津山，わずかに倉敷と映画圏は県下 2 大商圈時代となった。周辺の小さな映画館は去った。

そして 2000 年，シネマコンプレックスやチボリを有する倉敷が岡山，津山の商圈を奪い，県下 3 大商圈を形成，大型店舗競合時代の様相。